

## 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた

子ども主体の授業づくり（1年次）

### 1 研究主題について

#### （1）これまでの研究について

本校の教育目標は「自分から自分でする人間を育てる」である。自分から自分でする人間とは、自分の力を発揮して「主体的に」「自立的に」学校生活に取り組む児童生徒である。

自分から自分で取り組んだり、自分の力を発揮したりするためには、児童生徒一人一人のニーズに合わせた最適な支援が必要である。本校では長年にわたって「できる状況づくり」の考え方を大切に子ども主体の授業づくりを行ってきた。児童生徒が力を発揮して自分から自分で取り組むためには、一人一人が必要とする最適な支援をすることが大事だと考える。

前研究「自立と社会参加を目指す子ども主体の授業づくり」では、「社会に開かれた教育課程」「育成を目指す資質・能力」をキーワードに、自立と社会参加に向けて、地域や社会と連携・協働をした授業づくりを行った。地域や社会を意識することで、児童生徒がやりがいと手応えを感じられる本物の活動につながった。また、授業づくりに「テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力」を踏まえることで、これまで以上に児童生徒の育ちを丁寧に見取り、観点ごとに具体的に評価をすることができた。

引き続き「できる状況づくり」を大切にしながら、児童生徒がより自分の持てる力を発揮し、主体的に、自立的に活動に取り組む姿を追究していきたいと考えた。

#### （2）「主体的・対話的で深い学び」について

平成29年に公示された新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくりについて示された。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、視点を踏まえた授業改善をしていくことが求められている。

本研究は、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が見られるような単元計画や授業改善を検討し、子ども主体の授業づくりの質をより高めるための取り組みである。本校では「主体的・対話的で深い学び」の考えが示される前から、児童生徒が仲間と共にテーマを共有しながら主体的に精一杯活動に取り組むことを大事にするなど、このキーワードに沿った授業づくりをしてきたが、改めてこの視点について考え、授業や児童生徒の姿を丁寧に捉えることで、本校の授業を更にブラッシュアップしていきたいと考えた。

### 2 研究のねらい

- ・「できる状況づくり」をベースに授業実践を積み重ね、支援の充実を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を各学部で探り整理し、その視点から単元計画や授業などの改善を図ることで、子どもが仲間や地域・社会と共に活動し、自分から自分で生き生きと取り組む姿を目指す。

### 3 研究の方法（1年次）

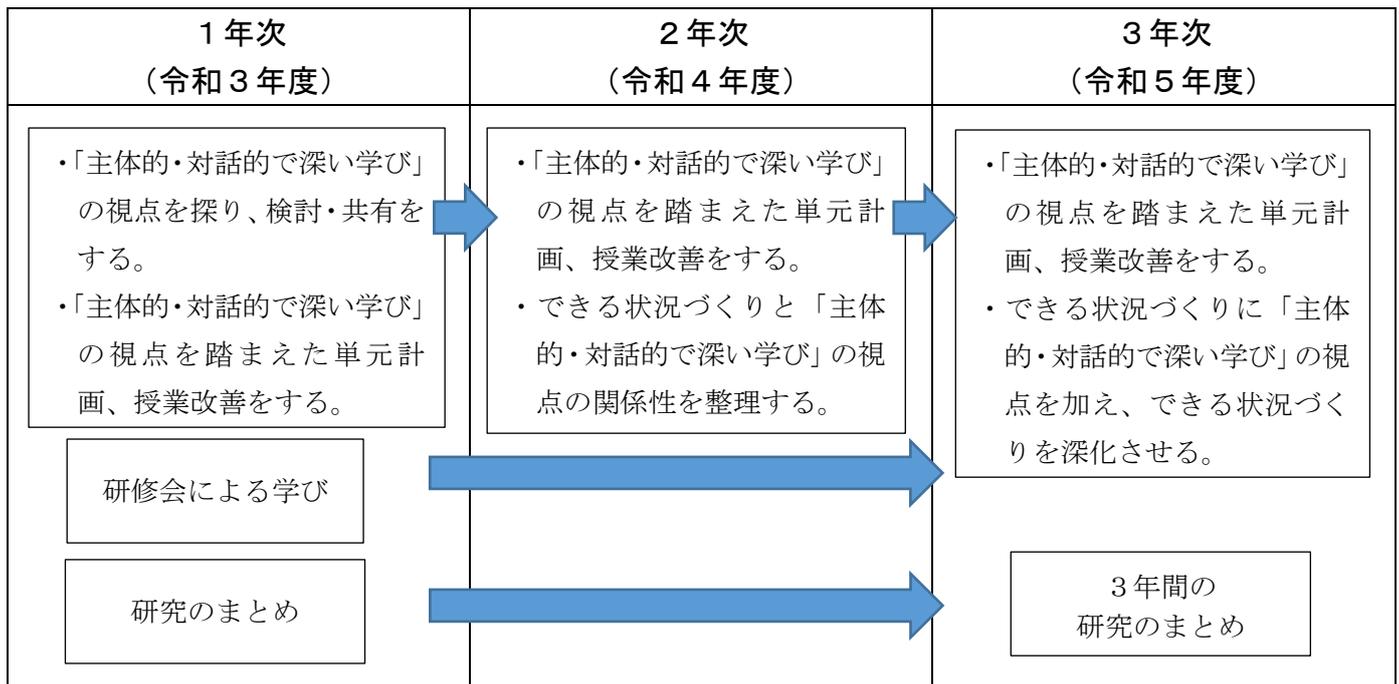
- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点の検討、授業改善  
 ・各学部で下記の視点による具体的な取り組みを定めて実践する。

視点① 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善の工夫を検討する。  
 視点② 授業研究会などで「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から単元計画や支援等を検討し、授業改善を図る。その際、「できる状況づくり」のポイントを基本とする。

- (2) 共同研究者・外部講師招へい研修会等による学び  
 ・「主体的・対話的で深い学び」の考え方や、授業実践の基本的な考え方などについて、全校および各学部で研修をする。
- (3) 研究のまとめ  
 ・研究の成果と課題を研究紀要としてまとめる。
- (4) その他  
 ・授業研究会や、単元の反省を生かして授業改善につなげていくための方策について、各学部で探っていく。  
 ・各学部の授業づくりや研究実践の課題解決に向け、必要に応じて研修等を設定する。

### 4 研究計画

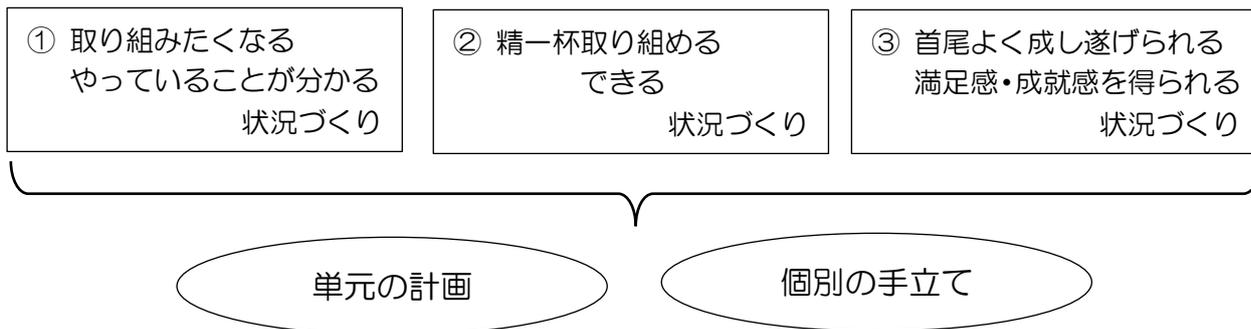
本研究は3か年計画とする。



#### ■「できる状況づくり」とは…

児童生徒が力を尽くして精一杯活動できる状況、力を尽くすことで首尾よく\*成し遂げることのできる状況をつくること。児童生徒が、さして努力せずともやれるようにすることではない。力を尽くして精一杯取り組み、首尾よく成し遂げたときの満足感や成就感の積み重ねが、児童生徒の意欲、自己肯定感を高め、主体的な姿につながるものと考えます。  
 \*首尾よく…うまい具合に

◆ できる状況づくりのポイント



〈単元の計画の4観点〉

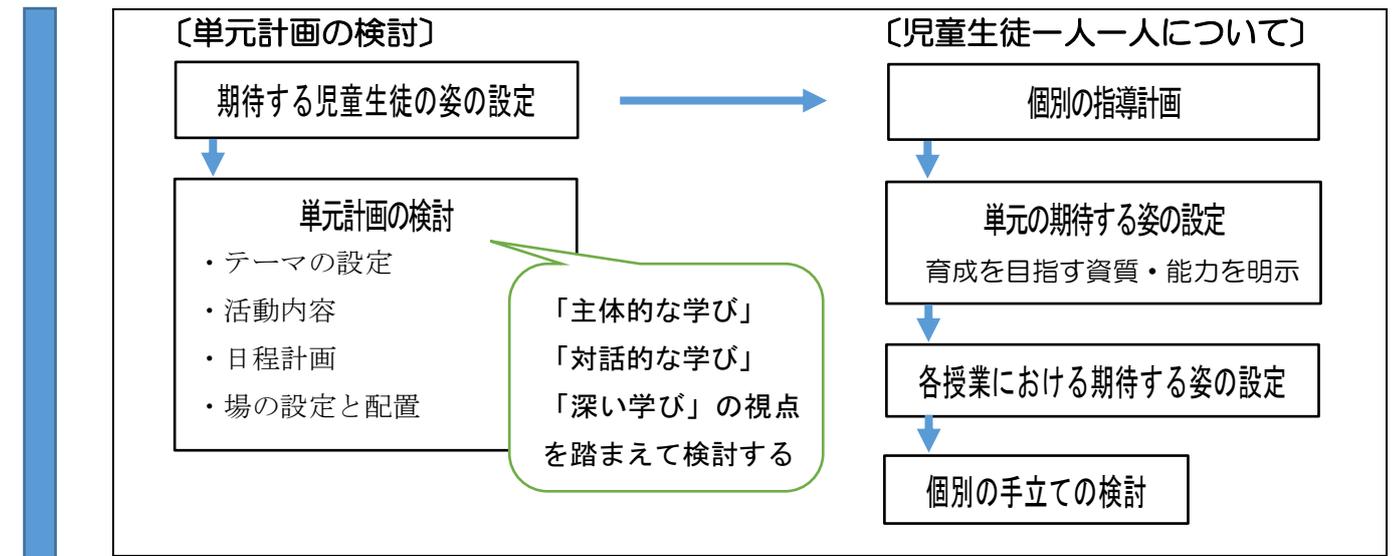
観点	工夫の視点
<b>テーマの設定</b> 一定期間活動する上での 目標や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の思いや願い、興味関心を取り入れたテーマ</li> <li>・ 意識しやすく、どの子も共有できるようなテーマ</li> <li>・ 生活年齢にふさわしく発展性があるようなテーマ</li> <li>・ 地域や社会を意識したテーマ</li> </ul>
<b>活動内容</b> 単元の構成 活動グループ 授業内容など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要感を持ち、やってみたいと思えるような活動内容</li> <li>・ テーマに沿って、繰り返しできるような活動内容</li> <li>・ 一人一人が「持てる力」を発揮できるような活動内容</li> <li>・ 自分で考えたり、判断したりできるような活動内容</li> <li>・ 結果が分かりやすく「できた」「またやりたい」と思えるような活動内容</li> <li>・ 仲間や地域の人、社会と関わり、協働して取り組めるような活動内容</li> </ul>
<b>日程計画</b> 単元における日程計画全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心的な活動を繰り返すことができるような日程計画</li> <li>・ 期待感や雰囲気盛り上がる日程計画</li> <li>・ 満足感・成就感を分かち合える日程計画</li> </ul>
<b>場の配置と設定</b> 活動場所の設定 道具や補助具、遊具の位置 児童生徒・教師の配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返し取り組みやすく、活動しやすい場の配置と設定</li> <li>・ 束縛されず、思いっきり活動できる場の配置と設定</li> <li>・ 活動の場が見渡せ、仲間と一体感の持ちやすい場の配置と設定</li> <li>・ 一人一人の活動の流れが自然で、関わりやすい場の配置と設定</li> <li>・ 安全で、遊具や道具が扱いやすい場の配置と設定</li> </ul>

〈個別の手立ての6観点〉

観点	内容
見通しやめあて	・ 児童生徒が活動に見通しや目標を持って取り組めるようにすること。
場の配置	・ 児童生徒が活動しやすく、意欲的に取り組めるように、活動場所や環境を整えること。
教材や用具	・ 児童生徒が使用する教材(学習プリントや材料など教材全般)や用具(道具や補助具、遊具)を準備、設置したり、使いやすくしたりすること。
工程や手順	・ 児童生徒が取り組む活動の工程や手順に関すること。
友達や教師との関わり	・ 児童生徒が活動している際の、教師の直接的な声掛けや援助、共に活動する、見守る等の支援に関すること。また、一緒に活動する友達同士の関わりに関すること。
活動の選択	・ 児童生徒が活動を選択したり、決定したりできるようにすること。

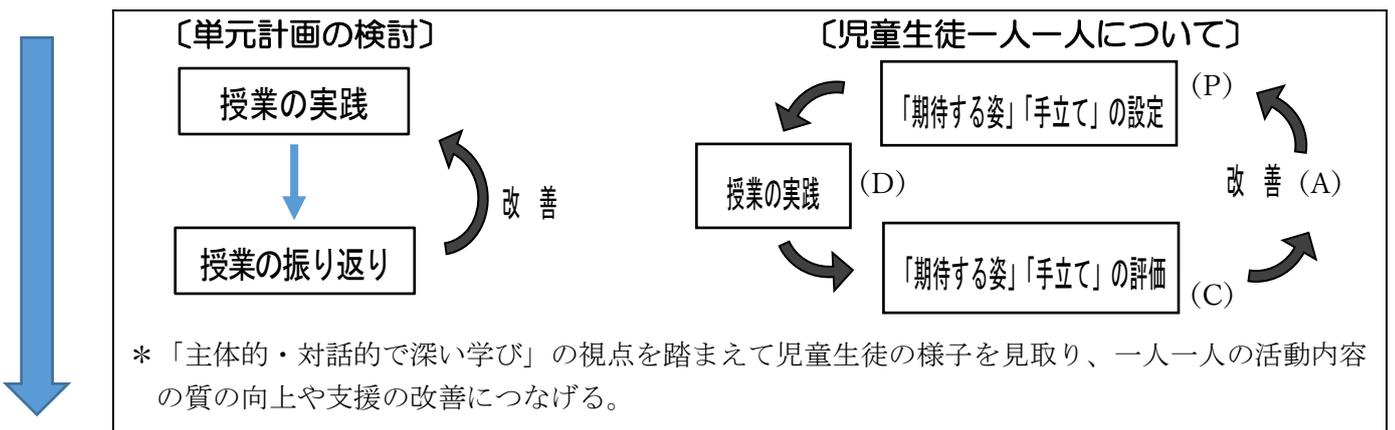
◆授業づくりのプロセス

単元の計画 (Plan)



\*できる状況づくりのポイントを基に計画を進める。

単元の展開 (Do)



\* 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて児童生徒の様子を見取り、一人一人の活動内容の質の向上や支援の改善につなげる。

単元の評価とつながり (Check)

- ◆単元のまとめ
  - ・主体的、自立的な姿が見られる「単元計画上の工夫」(活動内容、日程計画、場の設定と配置等)ができたか検討しまとめる。
- ◆児童生徒のまとめ
  - ・単元期間中の児童生徒の様子や変容、有効だった支援についてまとめる。
  - ・単元で見られた「主体的・対話的で深い学び」についてまとめる。
  - ・単元で精一杯発揮できた力や資質・能力について今後どのようにしていくかまとめる。
- ◆教師の取り組みのまとめ
  - ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点についてまとめる。
  - ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の取り組みについてまとめる。

次の単元などへのつながり (Action)

- ◆まとめたものを次の単元計画、児童生徒の支援に生かす。
- ◆「個別の指導計画」へのフィードバックを行う。

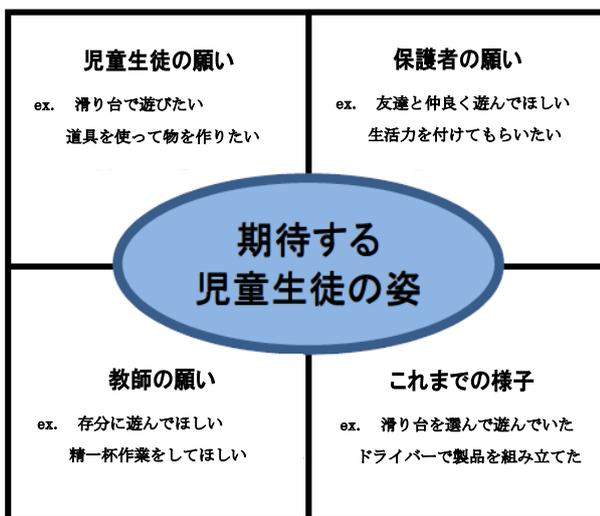
<資料>

## ■「期待する児童生徒の姿」とは…

児童生徒が「自分から」「自分で」主体的に活動する具体的な活動の様子を示すもの。主体的な姿とは、児童生徒自身が学校生活を過ごす主体者として、次のような姿でそれぞれの授業や学校生活に参加する姿である。

- 自分で判断し行動してそれぞれの活動に向かう姿
- 自分の気持ちややりたいことを表現し、活動する姿
- 自分で活動を選び、進んで活動する姿
- 取り組んでいることに精一杯力を出して活動している姿
- 活動に楽しみや喜びを持って、意欲的に活動している姿
- 自分の役割やめあてが分かり、それに向かって力を発揮して活動する姿
- 活動を終えて手ごたえや満足感・成就感を感じる姿

一人一人の期待する姿については、「めあて」として実現できそうなことを具体的に設定していく。その際、教師側の一方的なねらいとしてではなく、児童生徒自身の願いやこれまでの様子、保護者の願いなどを考慮して設定するよう留意する。



「期待する児童生徒の姿」イメージ

<参考文献>

1. 山形県立米沢養護学校 (2021) 「研究紀要 4 4 集」
2. 山形県立米沢養護学校 (2018) 「研究紀要 4 1 集」
3. 山形県立米沢養護学校 (2013) 「研究紀要 3 6 集」
4. 文部科学省 (2017) 「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
5. 岩手大学附属特別支援学校 (2017) 「I F T 2 4 研究紀要」